

---

---

## 書評

---

生物と気象 (*Clim. Bios.*) 8:C-1, 2008

~~<http://www.soc.nii.ac.jp/agrmet/sk/2008/C-1.pdf>~~

2008年6月17日掲載

<http://www.agrmet.jp/sk/2008/C-1.pdf>

# 水の革命

## 森林・食糧生産・河川・流域圏の統合的管理

イアン・カルダー 著, 蔵治光一郎・林裕美子 監訳, 築地書館

2008年1月, 269pp. 定価 3000円

世界人口の増加や人間活動に伴う水需要の増加の中で、限りある資源としての淡水資源の持続的で公平な利用が強く求められている。著者は本書において、水資源の持続的で適切な管理には統合的な取り組みが重要であるとし、これを食糧の飛躍的な増産を達成した緑の革命に対する言葉として、「青の革命 (=水の革命)」と呼んでいる。中でも著者は土地利用と水利用を同軸で扱う総合的土地・水資源管理 (ILWRM; Integrated Land and Water Resources Management) を青の革命の基本と位置付けており、水と森林との関わりや土壌劣化、灌漑用水との関係について、その地域性やこれまでの間違っただ俗説、各種業界団体の利権や政治問題との関係など、世界各国における多くの事例や研究を交えて解説している。本書は以下の章からなっている。

- 序章 革命
- 第1章 新たな理解—土地利用と水の相互作用
- 第2章 森林と水—神話と俗説
- 第3章 水資源と「制限」概念—蒸発散量を推定する総合的アプローチ
- 第4章 新たな理念
- 第5章 政治、権力、犠牲
- 第6章 水資源をめぐる対立
- 第7章 総合的土地・水資源管理 (ILWRM)

第1章と第3章において、水循環を考える上で重要な蒸発散の基本と水循環の中で起こりうる土地劣化について概説し、また蒸発散量の制限要因について気象や水収支の観点から検討・整理している。第2章と第5章においては森林が地域水文に与える影響をはじめ水に関する諸問題について、一般に信じられている間違っただ俗説や政府機関・援助機関及び業界団体の利権に影響を受けた不適切な政策について、各種データを引用しながら検討・整理している。第4章では国連をはじめとする世界的な枠組みでの水資源管理への取り組みについて、総合的土地・水資源管理を軸に近年の状況を概説している。第6章では土地利用と水資源をめぐる対立について各国の事例を中心に解説しており、日本の大規模公共事業についても触れられている。第7章においては総合的土地・水資源管理の概念および手法について、GISなど先端技術を利用した管理手法の事例も交えて紹介している。

このように本書は農業気象学分野と関わりの深い水循環や水資源管理について、各国の事例や研究業績などを交えながら丁寧に解説した読みごたえのある一冊である。水に関わる研究者や技術者、学生諸君にぜひ勧めたい。

(宮崎大学農学部 多炭雅博)